

# カトリック 仙台教区報

2002年 11月 30日 号外

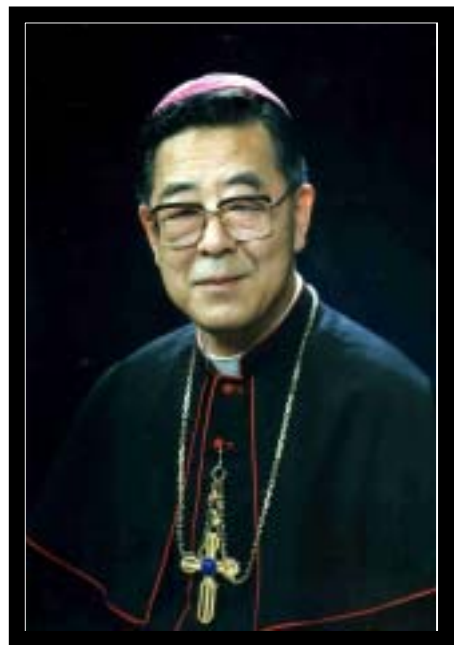
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任者 本部事務局  
URL ; http://sendai.catholic.jp/

## 前仙台教区長 ライムンド 佐藤千敬司教 帰天

前仙台教区長ライムンド佐藤千敬司教は、十一月十二日午後五時四十五分、入院中の仙台市宮城野区の光ヶ丘スperlマン病院で多臓器不全のため天に召された。享年七十六歳。

葬儀ミサ・告別式は十一月五日(金)十一時よ 間教区長として非常に困難な

り仙台教  
区長溝部  
脩司教の  
司式のも  
と、カト  
リック元  
寺小路教  
会(カテ  
ドラル)  
で執り行  
われた。  
葬儀に



「わたしは、あなたの行いを知っている。  
あなたの愛、奉仕、忍耐を知っている。」

### ヨハネの黙示録 2・19

は、アンブロジーオ・デ・パ  
オリ ローマ教皇大使、岡  
田武夫大司教、ドミニコ会  
日本管区長・田中信明神父  
を始め司教七名、ドミニコ  
会士十名、教区内司祭四〇  
名、修道者、信徒六〇〇名  
が参列。岡田大司教は葬儀  
ミサの説教で「ほんとうに  
お疲れさまでした。どうぞ  
ごゆっくり主のみもとでお

職務と、教区長を辞してからの  
長い闘病生活に対してねぎら  
いの言葉をかけられた。(本文  
二ページ)  
告別式では、佐藤司教のもと、  
司教総代理を務めた三浦平三  
神父が弔辞の中で、仙台教区の  
困難な時代にあつて、教区財政  
の立て直しや、司祭給与制度を  
確立された功績、大神学校同期  
生としてのエピソードを交え

### 佐藤司教を悼む 仙台教区長 溝部 脩

佐藤司教は一九二六年仙台市に生まれ、戦後大学生としてカトリック教会の門を潜り、一九四八年聖ドミニコ修道会に入会しました。神学の勉強はカナダ・オタワ大神学校で終えて、一九五九年カトリック司祭に叙階されました。司祭として主に学生とのかかわりの中で働き、一九七三年より教区司教代理、事務局長の職務を果たし、一九七六年仙台司教に叙階されました。実に二十二年の長きにわたり、教区のために尽力されました。今から四年前(一九九八)健康が勝れず、現職を辞退、東仙台の「司祭の家」に引退しました。

以前よりあつた腎臓病が悪化し、手術を受けたり、苦しい日々を過ごしていました。それでも忍耐力と自己を制御する

て同司教を偲び、別れの言葉を述べた。(本文三ページ)  
参列者に見送られた棺は、斎場に運ばれ午後二時から火葬に付され、十六日十時、鶴ヶ谷カトリック墓地に埋葬された。

なお、前日午後七時からの通夜には同司教の悲報を聞きつけ三五〇余名が参列した。

その克己の精神は見事なものでした。私は「黙示録」二十九のことばを黙想しました。折、佐藤司教のことをつくづくと思わされました。「わたしはあなたの行いを知っている。あなたの愛、信仰、奉仕、忍耐を知っている」。黙々と余生を生きている姿は修道者であることを思わせました。

この三週間体調が思わしくなく、夜中起き上がれないことが何度か続きました。そして先週の土曜日、十一月二日夜中十一時三十分急性肺炎と軽い心筋梗塞で入院いたしました。呼吸が苦しい二三日の後、平常の状況が続きました。その中で病者の塗油と聖体を差し上げたら、とても喜んでいました。しかし十日から腎臓が悪化し、呼吸もままならず、苦しい状態となりました。十二日の午前は落ち着いた状態でしたが、午後になり呼吸が苦しくなり、同日午後五時四十五分多臓器不全でこの世を旅立ちました。

最後は安らいだ時を司祭の家の人々とオタワ会のシスターに見守られてすごしました。闘病中丹念に看病下さつた院長先生、看護婦の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

今は仙台教区も悲しみから立ち上がり、佐藤司教の遺功を継いで、また新しい歩みを致さねばなりません。

## 心からの感謝

葬儀ミサ説教岡田武夫大司教

佐藤千敬司教様のご帰天の報に接し、悲しみのうちにわたくしどもは、この仙台カテドラルに集まりました。司教様は、一九七六年から九八年のちょうど二十二年間、仙台司教をお務めになられました。

司教様は、ドミニコ会の修道者であり、そして司祭でいらつしやいました。小林司教様が在位していらした七十三年から、司教に任命される七十六年まで事務局長をなさり、その小林司教様のあとを受けて、司教の座に着かれていました。これはわたくしの想像でございませぬが、このことは佐藤司教様にとって、思いもかけない神様の摂理であつたのではないでしょう。司教様は、ドミニコ会の司祭として生まれ、そして、生涯そのおつもりでいらしたのではないかと



と推測申し上げます。司教様は東北帝大の学生時代に洗礼を受けられています。そしてその前は、海軍兵学校の学生でした。戦争が終つて当然のこと、兵学校は閉鎖になりました。その時点でまだ、司教様は信者ではなかつたわけです。佐藤千敬青年が、戦争、敗戦、そして入信という、人生の最も感ぜやすい年齢のときに、劇的な体験を繰り返されたのではないかと、これも推察申し上げます。図らずも、佐藤司教様は仙台教区の司教となられ、二十二年間、司教のお務めを果たされました。わたくしは司教として、佐藤司教様の働きに心から御礼申し上げます、そして、

「ほんとうにお疲れさまでした。どうぞ、ゆつくりと主のみもとでお憩いください。」と申し上げたいと存じます。部分教会の世話を託された各司教は、ローマ教皇の權威のもとに、それらの教会の固有、本来直接の牧者として自分の羊たちを主の名において牧し、彼らを教え、聖化し、統治する任務を行います。司教様は、仙台教区の司教として、仙台教区の羊たち、そして

まだ、羊の柵の中に入つていらつしやらない数多くの人々のために司教の務めを遂行されました。申し上げれば、司教の仕事は簡単に言い尽くすことのできないものです。すけれども、「教えること」、「聖化すること」、「治めること」の三つにまとめることができるでしょう。

「教える」任務の中で特に優れ

ていることは、福音を告げ知らせる任務です。その際、特に配慮すべきことは、自分に委ねられた地区の人々の中において、貧しい人、弱い人に優先的に福音を伝えるということと、さらにその際、司教は人々の中へ赴き、人々の話に耳を傾け、話し合いを行い、そして人々の声、人々の心に十分な配慮をしなければならぬと記されています。

次に、司教にとって非常に大切な任務は、「聖化する」任務です。司教は、神の諸秘跡の主要な分配者であると共に、自分に託された教会における典礼生活全体を統制し、推進し、そして見守る者なのです。

また司教は、自分に託された教区を「治める」という、非常に重要な任務を与えられています。統治と言へば適切ではないかもしれませんが、人々に奉仕するということと、特に、司教と司祭の関係が大切だと思います。司教は、自分の任務を分かち合い、日々、熱心にその務めを果たしている司教に対して、特別な愛を持って接し、

彼らにあたかも自分の子供のよう

に、そして同時に友と考え、その意見をよく聞く心構えを持ち、信頼を持って彼らと話し合い、そうすることによって、教区全体の司牧活動を推進するように努めなければならぬと、公会議は教えています。

ライムンド佐藤千敬司教様は、仙台司教として、この三つの任務

を遂行なさいました。そして道半ば、病氣のためにご自分の限界を感じられ、定年になられる前に、教皇様に辞任を申し出られたのです。わたくしは、佐藤司教様がどんなに一生懸命に働いていらしたかということを少し離れたところから拝見して見ました。ほんとうに、よく働いてくださいました。今は、

「どうぞ、主のみもとでゆつくりお休みください。」と申し上げたいと思います。仙台司教としての司教様の働きは、わたくしよりもここに集まられた皆様のほうが存じだと思ひます。わたくしは、司教様の別な面について一言付け加えたいと思ひます。

佐藤司教様に限らず、わたくし

たち司教は自分の教区において、宣教師牧における任務に対し、司教協議会の一員として、日本の教会全体の共同責任を担っています。最近頃に、司教協議会の役割が重要になってきました。わたくしたちはそれぞれ力を合わせて、日本の教会全体の任務を遂行致します。わたくしは司教として、また司教になる前も、司教協議会の仕事をさせて頂いていましたので、佐藤司教様が東京に出てこられ、司教協議会の仕事をいらつしやる様子を身近で拝見して見ました。

司教様は、特にカリタスジャパンの担当者として、それはよくお働きになりました。国内外の貧しい人、困っている人々の支援、救済をすることがカリタスジャパンの仕事です。今日のカリタスジャパンの働きには、大きな発展があり

ました。それは多くの部分、佐藤司教様の功績であると、わたくしは思っています。また、佐藤司教様は、司教協議会において財務の仕事を担当なさいました。これは、大変地味な仕事ですが、非常に大切な仕事です。適正にして、健全な財務が行われるよう、司教様はきめ細かく指導にあたってくださいました。これも、わたくしたちあとに続く司教にとつて大変ありがたいこととございました。また、司教様はいろいろな会議、司教総会、あるいは常任司教委員会、その他の会議において常に、きちんとした発言をされ、そして、非常に論理的な意見を提出されました。わたくしはいつも、やはりドミニコ会の司教様だなぁというように感じておりました。

仙台教区は二年前に溝部司教様を迎え、決意を新たに歩んでいきます。佐藤司教様の帰天は大変大きな打撃ですが、司教様は主のみもとからきつと、わたくしたちの働きをあたたく見守ってくださいます。司教様の帰天をむしる励ましとして受けとめ、仙台教区がさまざまな課題、問題に直面しながらも聖霊の導きに信頼し、この東北の地において、福音化という任務に取り組んでくださいますよう、一人の司教として特別にお願いし、そして、わたくし共にできる応援をさせていただきますと考えております。

# 弔辞

仙台教区司祭 三浦平三神父

いま現実にこうしてご遺体を前にお別れの言葉を述べることは、人の世の定めとはいえ無情なことです。佐藤千敬司教様、仙台教区長として二十二年間、教区のため誠心誠意尽くして頂き、本当に有り難うございました。生涯の終わりは思いがけない長い闘病生活になりましたが、いかばかり切なかつたことでしょうか。それも耐えられ、一昨日の朝に「司祭の家」で拜見したお顔は、とても安らかなものでありました。

佐藤司教様は私の上長者でありましたが、同世代を生きた友人として様々な交流がありました。お別れにあたり過去を思い出しながら、お話し上げたいと思います。

初めてお会いしたのは昭和二十六年三月、五十年以上の昔になりました。狐小路にあった「学生の家」ででした。ご復活祭に洗礼を受けた私たちの為のお祝い会があり、司教様は「学生の家」の先輩として見られました。まだ海軍生徒の面影が残るスマートな青年でしたが、ドミニコ会の志願者で、やがてカナダの神学校に行くという話でした。司教様は海軍兵学校から復員して東北大学の法文学部経済学科を卒業。その時代にドミニコ会の渡辺神父様から洗礼を受けました。私も陸軍の学徒兵から復員して東北大学の文学部を卒業。やはりドミニコ会のピシエ神父さんから洗礼を受けました。司教様

は仙台一中、私は仙台一中で同学年ですが、年齢は私が一つ上、大学の卒業と洗礼は司教様が二年先輩でした。

その後、司教様はカナダの神学校に進み、私も東京の神学校に進み、再会したのは凡そ二十年経ってから、一人とも司祭になって五年目の頃と思います。司教様はドミニコ会の若き司祭として、大で教えたりカトリック学生連盟の指導司祭となったり、将来を嘱望された存在でした。私は助任司祭・主任司祭を経て、教区会計として教区事務所で働いていました。



昭和四十三、四年頃は、仙台教区が小林司教の信徒使徒職構想をめぐって大きく揺れていた時代でした。その頃の佐藤司教は北仙台教区に口ゴス研究所を作ったり、また「学生の家」の責任者をしていました。が、いわば教区の外野席からずいぶんきつい意見も云い、教区側の私と論争をしたものでした。

区事務担当の司教代理に任命され、混乱した教区事務所の再建にあたることになりました。当時、司教協議会事務局次長の私は、教区事務局局長会議を催していました。佐藤司教様も仙台から参加され、そんな時には夜遅くまで仙台教区のことを話したり、私の知る情報を提供したりしました。やがて小林司教様の引退が本決まりになる頃、半ば冗談で「司教にならない方がいいよ」と言いました。司教叙階の後に、「司教任命はなかなか断れないんだよなあ」と言ったのを覚えています。仙台教区には有り難いことでしたが、そこから司教様の苦難の道が始まったのです。

「カトリック新聞」の任期は何時までなのだ、早く教区に戻ってくれ」と会うたびに云われました。司教様はやがて担当の力リタス・ジャパンに力を入れ始めました。カトリック新聞担当に浜尾司教様の転出を機会に私は教区に戻りました。そしてすぐ司教総代理に任命され、兼任で社会福祉の仕事もすることにになりました。佐藤司教様は私の協力を望み私もお助けすることを心掛けていました。

三年間、司教館で起居を共にしましたが、総代理は交替となり、専任で暁星園の園長になりました。それも三年間で、気仙沼教会に任命されました。気仙沼にいた十三年間は積極的司教様に近づくとはいえありませんでした。その間に、全教区の幼稚園を含めた学校法人化の確立、カテドラルと教区センターの建設、スベルマン病院のホスピス棟増築など成果を目にすることができました。しかし佐藤司教様の功績は、何といたっても教区の財政再建を手掛けたことです。経済出身者らしく、それまで大分いい加減だった教会会計事務の整備、財源の確保、司祭給与制度の確立など、多教区に誇る基礎を築いたことです。これは誰もが認めることです。ただその代償のように司教様は病魔に犯され、歩行が困難になり、だんだんと高じて職務の遂行にも支障が出るようになりました。そして平成十年六月教区長職を辞任、兼任していた諸法人の理事長も辞任して引退されました。社会福祉法人の理事長は私が引き継ぐことになりました。因縁を感じさせられることです。

仙台に戻ってから二人で話す機会があり、その時、「どうしてこのような病気になるのかと医者に聞いたら、それはストレスだといわれた」としみじみ云っていました。佐藤司教様は真面目すぎました。細かいことまで、ご自分でなさっていました。本来ならドミニコ会の修道司祭らしく平穏な学究生活を願っていたはずですが、それが恐らくご自分では望まれていなかったらどう司教職に就き、複雑な人間関係の中に入ってしまったら、ストレスが溜まるのは当然でしょう。しかし考えてみれば、周囲にいる私などがもっとお手伝いしたら、ストレスも多少は解消出来たのではないかと、心が痛みます。

最後にお会いしたのは、九月二十三日朝早く用事で、「司祭の家」を訪れ、朝食を終えた佐藤司教様が独りで食堂におられた時でした。挨拶をして、司教様が社会福祉法人の理事長時代に新築した、老人ホーム・パルシアが創立四周年を迎えること、きわめて評判がよいことなどを話しました。司教様は我が意を得たりとばかりに、ドミニコと笑顔に変わり、「そうかそうか、あれは第二暁星園のつもりだったんだ」などと話弾みしました。後で傍にいた鷹齋神父様から、「佐藤司教様と笑顔で話すのは、あなたぐらいのものだ」と冷やかされましたが、佐藤司教様との最後が笑顔であったことはとても有り難く、私にとって大きな救いとなりました。

最後に重ねて申し上げます。司祭として、また友人として期待に応えられず、十分な協力が出来なかつたこと、司教様どうぞお許し下さい。そして改めて仙台司教として在任された二十二年間のご苦勞を思い、仙台教区をよき方向に導かれたことを心から感謝いたします。有り難うございました。すべてご存じの御父のもとで永遠の安らぎが得られますように。

(紙面の都合上一部割愛いたしました。)

# 通夜説教

仙台教区司祭 鷹野達衛神父

二十二年間の長きに亘り、仙台教区長として働かれたライムンド佐藤千敬司教様は、去る十一月十二日、午後五時四五分、光ヶ丘スベルマン病院において多臓器不全のため逝去なさいました。御歳七十六歳でいらつしました。平成十年、ご病氣により、七十二歳にして教区長職を辞任なされた司教様は、東仙台の「司祭の家」に住まれ、四年有余に渡って、静かに療養生活を送っておられました。

佐藤司教様は、大正十五年三月三十一日仙台市に生まれ、幼少期を郡山市で過ごし、中学時代に仙台へ引越し、仙台二中から海軍兵学校に進まれましたが、卒業を二ヵ月後に控えて終戦となり、復員して東北大学法文学科経済科に入学なさいました。在学中に角五郎町教会(現西仙台教会)において渡辺吉徳神父様から洗礼を受けられ、昭和二十四年大学卒業後、聖ドミニコ修道会に入会、昭和二十八年にはカナダはオタワ市にあるドミニコ会神学校に入学、昭和三十四年、同地において、初代仙台教区長であられたルミユ大司教様により司祭に叙階されました。

帰国後は、清泉女子大学助教

授、ドミニコ会修練長、昭和四十年には、「仙台カトリック学生の家」の主管者となり、日本カトリック学生連盟、仙台学連の指導司祭として活躍、昭和四十六年には北仙台教会敷地内に「仙台口ゴス研究所」を開設して、その主管者となりました。しかし昭和四十八年、小林司教様の要請によって仙台教区事務局長に就任、司教の片腕となつ



て教区事務所の地道な仕事に携わり、また仙台教区カテキスタ会の指導司祭としても働かれました。そして三年後の昭和五十一年三月二十日に、元寺小路司教座聖堂において、レミユ大司教、その他の司教様方ご参席の下、駐日パチカン大使ヒツポリト・ロトリ大司教様によって司教に祝聖され、五十一歳にして第四代仙台教区司教に抜擢されたのでした。

そして早速その年の七月には、仙台司教として「激動時代に生きる信じる者」と題し、第二バチカン公会議の方針に従い、教会内の改革を通して新しい時代に即応した教会の在り方を模索する必要を訴える檄文を、カトリック新聞紙上に発表しておられます。

それから二十二年の年月が経ち、仙台教区長を辞任なされた平成十年ごろには既に、健康が決してよい状態にはなかつたようです。しかし最後まで、与えられた任務を忠実に果たそうと努力しておられました。

教区長という重責の上に、宗教法人の代表役員、学校法人、社会福祉法人、財団法人などの理事長職も兼任なされておられたため、恐らく言葉では言い表すことができないほどのご苦勞を味わわれたであろうと想像いたします。特に時代の移り変わりに伴い、各々の法人にとって、次第に経営・存続の難しさという問題が生じて参りましただけに、病氣を持つておられた事は大変な重荷であろうと思われま

す。司教様としての佐藤司教様は、きわめて忠実のお仕事をなさつただけに、ちよつと取っつきにくい感じがありました。仕事と

なりますと、いい加減なことでは満足なさらず緻密と思えるほど慎重に順を踏んで事を進められるのが常でしたから、それが取っつきにくい感じにさせたのではないかと想像致しております。要するに理性的に物事を進められるのが一番お好きなタイプでいらつしたと思います。細かいメモをいつも大切にしておられたのがとても印象的でした。普通なら、つい口に出してしまってもできませんでしたが、これも慎重さと責任感の表れではなかつたかと思えます。とても我慢強いお方でした。



献花する信徒たち(11月4日通夜)

人から良く評価されることも敢えて望まず、ただひたすら現実の状況に甘んじ受けるように努力なさつてこられました。佐藤司教様のそのお姿は、最期まで耐え忍ばれたキリストの後を追うものの姿を彷彿とさせたと言つても過言ではないと、今にして思います。本当に忍耐強いお方でした。

最近教会関係では創立五十周年記念式典があちこちで行われておりますが、その際発行されている記念誌の中に、信者さん方とほほ笑みを交わしておられる若き日の司教様のお姿が写っているのを見ます。よくお話の中に、軽いユーモアを入れておられたのを懐かしく思い起こします。

今ご遺骸のお顔を拝見しまして、何といいお顔をしておられることかと感心しています。皆さんも必ずやそう思いになるに違いありません。このようなお顔こそ佐藤司教様本来のお顔だったと、改めて思っているところでありませう。

故人の永久の安息を祈りつつ、また私たちのために祈つて下さるようお願いします。お通夜の祈りに移りたいと思います。(紙面の都合上一部割愛いたしました。)

# 故ライムンド佐藤千敬司教様を偲んで

**司教様の沈黙**  
ドミニコ会管区長  
田中信明神父

私にとって佐藤司教様は、修道者の大先輩の兄弟であります。ですからいつもそのように接しておりました。時には、私たち後輩の話し合いに加わり、余りにも観念的な点を「今、ここで」どうするのだと叱咤されました。また、ある時は、司教様に意見を求めると「だから、どうなんだ」と先ず開口一番。

二年前の年が明けた頃、司祭の家に司教様を訪ねたところ、「幼きイエズスのテレジア」や「活動」と「観想」が話題になりました。私は、人や出来事に会おうと、祈りや活動に向かうが、「活動」と「観想」の時間を分けるべきではない、「活動しながら観想し、観想しながら活動する」その生き方を追求し、そのためには沈黙が必要です。話をしました。司教様は終始にこして聴いてくださいました。

私にとっては、時代は異なりますが同じカナダのオタワの神学校で勉強しました。その神学校時代、司教様は指導司祭から「幼きテレジア」についての書物を手渡され、随分霊的に助けられたと話してくださいました。テレジアは、彼女が愛の一致の頂にあつた時にさえ、彼女自身、神の沈黙に面して絶望という誘惑を体験しました。しかし、神を見たいとか神の声を聴きたいとは求めませんでした。彼女は、目を下げて、完全な委託のうち

そして、「今日会えてよかった」と。私たちは、時代の異なりますが同じカナダのオタワの神学校で勉強しました。その神学校時代、司教様は指導司祭から「幼きテレジア」についての書物を手渡され、随分霊的に助けられたと話してくださいました。テレジアは、彼女が愛の一致の頂にあつた時にさえ、彼女自身、神の沈黙に面して絶望という誘惑を体験しました。しかし、神を見たいとか神の声を聴きたいとは求めませんでした。彼女は、目を下げて、完全な委託のうち

のうちに、愛のいけにえを十字架上で成就なさったことを。司教様の晩年の「沈黙」は、ここに根ざしていたと私は解します。孤独のうちに「神の御旨を探究する」一人の修道者として。

## 一つの思い出 ドミニコ会ロザリオ管区 岡本哲男神父

はじめて司教様と出会ったのは、昭和二十六年（一九五一年）春、京都の聖トマス学院においてでした。



日本で働くドミニコ会ロザリオ管区とカナダ管区が合同で会員養成をすることになり、志願院として聖トマス学院が選ばれました。そこで、四国・松山で待機していたロザリオ管区の三人の志願者は養成担当者・アントニオ神父と一緒に京都に向かつて出発しました。先に到着していたカナダ管区の九人の志願者が私たちを待っていました。お互いに自己紹介をして共同生活が始まりました。

私は十二人のうち最年少者で、カナダ管区の志願者の一人が佐藤司教様でした。すらりと背が高く、海兵（海軍兵学校）出身者だと聞いて、圧倒される思いでした。軍国少年であった私は腰に短剣を吊り、白い軍服姿の

海軍将校の義兄にあこがれて、海兵受験が夢でした。



している次第です。  
**学生の指導司祭として**  
西仙台教会 猪岡 光  
当時高等裁判所の傍にあつた「学生の家」に來られた佐藤神父とお会いしたのは、一九六五年（昭和四〇年）のことでした。学生の指導司祭として、仙台地区のみならず、全国のカトリック学生連盟を含め広く活躍されました。学生にありがちな短兵急な質問に対して、いったんそれを逸らすような対応をしながらも、問題の捉え方の多面性を論理的に説明していただいたことをよく記憶しています。若い人たちの会話を楽しみながら指導されてきました。

私たちは和風建物の二階にある大部屋で皆一緒に寝起きし、朝晩、各自が押し入れから自分の布団を出し入れしていました。毎朝、司教様は布団に掛けたシートを一ミリの狂いもなくきちんと畳んで押し入れに納めました。「さすが海兵仕込みだ」と感心したことを覚えています。

その後、私は香港とマニラで勉強し、司祭になって帰国し、四国で働いていたので、司教様と出会う機会はなく、ただ師の司教叙階式に参列した時と三陸沖地震のお見舞いに來た時に会いました。このたび、師の葬儀に参列してその安らかな顔を拝見し、永遠の安息をお祈りす。

# 故ライムンド佐藤千敬司教様を偲んで

**佐藤千敬神父さまとの思い出**  
 元仙台カトリック学生連盟  
 委員長：小濱 泰昭

去る十一月十二日(火)午後五時四五分、佐藤千敬神父さま(前司教さま)はスペルマン病院にて神のもとに召されました。「冥福をお祈りいたします。日常の忙しさにかまけて病床にお見舞いに行かぬままのお別れになってしまい、心から悔いられる思いです。我々学生が佐藤神父さまにお世話になったのは一九六八年当時の学生の家(仙台高等裁判所斜め向いにあった)でした。仙台学生連盟の事務局がここにあり、神父さまはこの連盟の指導司祭だったのです。私は同じ東北大学の先輩として、公私共に悩み事相談したものです。講義が終われば自然に脚が学生の家に向いてしまつたのです。そこには常時十名前後の学生が各大学から集まり、佐藤神父さまのお話を聞いたり、集會を開いたり、また合宿をやったりしたものです。神父さまの魅力が魅力的な入ホットにしていたのです。相談には何時も元気づけられる革新的な回答を下された事、昨日のように思い出さ

れます。そんな訳で、私は結婚のミサや長男の洗礼なども佐藤神父さまにお願ひした次第です。

仙台教区の司教さまになられてからは中々お会いする機会も無く、病気を患つて入院されていることも聞いておりましたが、まさか七十六歳という若さで亡くなられるとは思つていませんでした。実に残念でなりません。

これから是非天国から我々を指導下さる様お願い致します

主の平和

神の身元に召された佐藤司教

## Ｅメールから

様には大変お世話になりました。溝部司教様をはじめ、仙台教区の皆様とドミニコ会の皆様にお悔やみを申し上げます。佐藤司教様のご冥福をお祈りいたします。また、私たちのために一生懸命働いてくださった佐藤司教様に感謝いたします。

デュベ神父

主の平安

佐藤千敬司教様の帰天、涙が止まりません。

春、ホスピスに入院された時は、私がプライマリー看護師でした。

一切の方々との関わりを避け、何時も静かにお部屋に中におられました。

司教様と呼ばれることを嫌い、佐藤さんとお呼びさせていただいておりました。

「死」を恐れるお気持ちは全

く見られませんでした。今、苦痛を取ってほしいと何時も、言われました。

皮膚の痒みが一番辛いのだと言われ、私が勤務の時は朝と夜となく、手作りのヨモギローションを塗ってさし上げたものです。

ホスピスの環境が気に入ったと言われ、無口な方でしたが私のジョークにつきあつて微笑んでくださったものです。

退院が決まると、次の入院が最後だなどおっしゃいました。

私は、プライマリー看護師でしたから、最後まで関わらせて頂くものと信じておりました。

旅立ちの前夜、お顔を見に本館へ参りました。

苦しみの中で私を分かってくださいました。

プライマリー看護師と患者の関わりはとても深いものがあります。

今、私は心の底から悲しみつつも、佐藤司教様が苦しみから解放されたことに安堵しています。

司教様の、あの少年のような照れ笑いのお顔が忘れられませぬ。

「冥福をお祈り致します。スペルマン病院ホスピス

赤井聖子

とでしようか。

佐藤司教様には長年仙台教区長として司牧の勤めの内に、この地上での働きを十分に成し遂げられて「おいで...」

そうイエスさまから言われたのだと思います。

司教様は見えないよつでも、消えたよつでも、ちゃんとおられます。住所がこの世界から変更になったのです。

いつか...この世界の一人一人の前に必ず現れる扉の前に立ち、そこが開かれて...

永遠の世界に入られたのですね。思いどおりにならなかつたこと。思いどおりにならなかつたこと。たくさんたくさんあつたと思いま

す。でも今、そのすべての涙を私が拭いてくださったこと。司教様...わたしたちはあなたのために祈りました。

司教様...仙台教区のため、日本の教会のためにおとりつきください。私たちは歩みます「行きましょつ、主の平和のうちに」。

このコトバを毎日胸に抱きながら...司教様 日々ますます私たちのために「しょうがないなあ」

でも、お祈りください。たくさん、たくさん、ありがとうございました。

福島市・カトリック松木町教会

一 信徒

## フォト・アルバム



葬儀ミサ



司教様方とのお別れ(献花)



教区司祭たちに抱かれて

# 弔電から

バチカン国務省長官

アンジェロ・ソダーノ枢機卿

教皇様は、前仙台教区長ライムンド・アウグスチノ佐藤千敬司教様の逝去の報を受けて悲しまれました。教皇様は、佐藤司教様が仙台教区において長年にわたって司教職を果たされたことに深く感謝されるとともに、

溝部司教様、ドミニコ会、そして葬儀ミサに参加している全ての参列と心を一つにして、このすばらしい牧者の魂を良い牧者であられるイエスのいつくしみ深い愛にゆだねることを望んでおられます。復活の恵みを希望しながら佐藤司教様の死を悼むすべての人に、教皇様は使徒的祝福を送られます。

申し上げます。

日本カトリック司教協議会

会長 野村 純一司教

ライムンド佐藤千敬司教様のご帰天の報に接し、心より哀悼の意を表します。

司教様は長年、仙台教区および日本カトリック教会のために働きいただき、特に司教協議会のカトリック新聞社の顧問司教としてご尽力いただきましたことを衷心より感謝申し上げます。

地上での役目を終えられた司教様が天の御父のもとで安らかに憩われますよう、心よりお祈り申し上げます。

韓国カトリック

司教協議会会長

クアンジュ（光州）大司教区

アンドレア・チョイチャン

グモウ大司教

主が彼に永遠の安息と平和をお与え下さいますように。

前仙台教区長ライムンド・アウグスチノ佐藤千敬司教様のご逝去を悼み、韓国カトリック司教協議会を代表して、佐藤司教様の永遠の憩いを衷心よりお祈り

し、溝部司教様の深い悲しみを分かち合いたいと存じます。

この訃報をいただいたのは、私たちの日韓の司教が第八回の交流会を開催しているまさにそのときでありましたことから、いっそう深い悲しみを覚えます。

私たちが韓国の司教と信者は、ライムンド・アウグスチノ佐藤千敬司教様が、天国の聖人たちと共に、永遠の憩いと平安のうちにありますように、お祈り申し上げます。

ケベック宣教会

総長ロランド ラネヴィル神父

会員一同

仙台教区前司教、ライムンド佐藤千敬のご死去にあたり、心からお悔やみ申し上げます。

故司教様が仙台教区の福音宣教のために絶え間ない努力とご苦勞をなされ、また私たち宣教師をいつも支え、励ましてくださりました。

佐藤司教様をくださった主なる神に感謝すると共に、その永遠の喜びと平安を、心からお祈り申し上げます。

「主に従う人の魂は主の手で守られ、もはやいかなる責め

苦も受けることはない。

主により頼む人は真理を悟り、主の愛のうちに共に生きる。」 知恵の書 三、一、九

ドミニコ会カナダ管区長 イヴォン・ポメーロ神父

佐藤千敬司教様の帰天に際し、特に、数ヶ月前にモントリオールでお会いした溝部司教様、仙台教区の司祭の皆様、信徒の皆様、また、佐藤司教様のご家族の皆様、ドミニコ会カナダ管区の兄弟として、心からお悔やみ申し上げます。

私たちの兄弟である佐藤司教様が五十年間の修道生活を通じて、日本の教会に献身されたことを思い起こし、神に感謝いたします。

私は、葬儀に参列できず、誠に申し訳ございませんが、主なる神が、佐藤司教様の聖ドミニコの足跡に従った使徒的献身をかえりみ、主のおそばに迎えてくださることを心からお祈りいたします。

「主に従う人の魂は主の手で守られ、もはやいかなる責め



修道者・信徒



教区司祭



司教様方

# 在りし日の佐藤千敬司教様



## 故ライムンド佐藤千敬司教 略 歴

- 1926年3月31日 仙台市に生まれる
- 1948年3月28日 仙台 北五十人町(現 角五郎丁)教会(現 西仙台教会)で受洗  
洗礼名 アウグスチノ
- 1949年3月 東北帝大法文学部経済学科卒
- 1949年4月 ドミニコ会に入会
- 1959年 カナダ オタワ市 ドミニコ会大神学校にて司祭に叙階
- 1963年4月 清泉女子大学助教授
- 1965年4月 仙台市『学生の家』責任者  
仙台カトリック学生連盟指導司祭
- 1971年10月 仙台ロゴス研究所所長
- 1973年1月 仙台教区事務局長・司教代理
- 1975年6月 財団法人光ヶ丘スペルマン病院  
理事長
- 1976年3月20日 教皇大使ロトリ大司教に  
より司教に叙階  
カトリック仙台司教区教区長
- 1976年5月 社会福祉法人カトリック児童福  
祉会理事長
- 1984年1月 学校法人東北カトリック学園  
理事長
- 1998年6月 仙台司教区教区長勇退
- 2002年11月12日 光ヶ丘スペルマン病院  
にて多臓器不全のため帰天

## 御 礼

藤千敬司教の通夜・葬儀ミサ・告別式に際しましては、ご多忙の中多数の皆様方にご参列頂き、また、ご芳志、供花、弔電を賜り、心から御礼申し上げます。

今後も、故佐藤司教が蒔かれた種が実りあるものとなり、神のみ国の実現のため、互いに一致と協力のもと力を尽くしていきたいと思っております。

皆様方のご支援、お祈りをお願い申し上げます。

カトリック仙台司教区

教区長 溝部 脩